

2020年6月21日

待ち望むすべての人に

今日は年間第十二主日です。灰の水曜日から数えて四か月となります。皆さんが戻って来られるのを祈りながらずっと待っています。まだ全員が戻れるわけではありませんが一部分的な再開—ということに感謝と尊さを改めて感じます。何よりも神さまに感謝したいと思います。

今日の第二朗読、使徒パウロのローマの教会への手紙の中で聖パウロは、「一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです」（ロマ5・12）と述べながら「罪が世に入った」ことにより、あらゆる人が罪の影響を受けざるを得ない地上の世界が描かれています。

すべての人に及ぶ罪の力、それはわたしたちに《パンデミック》という言葉の語源を思い起こさせます。世界的大流行を意味するパンデミックという言葉は、ギリシア語の「パン」（すべての）と「デモス」（民）から取られたと言われますが、その病が「すべての民」に及ぶことからこのような表現が生まれたと考えられています。わたしたちは、今、誰もがこの新しい病に感染する可能性があり、自分が感染するだけでなく、愛する人に感染を広げてしまうという危険性を恐れています。さらにわたしたちが直面している危機は、単に未知のウイルスとの闘いとどまらず、目に見えない恐怖と向き合う中で、いつのまにか差別や偏見に加担してしまうという危機や、わたしたちが内側に抱えている弱さや脆《もろ》さとの闘いに直面する危機と言い換えることができるかもしれません。

神さまは、一人ひとりの人間を素晴らしいものとして、神の似姿として、ユニークな存在として造ってくださいました。一回限りのかけがえのないいのち—を一人ひとりに贈ってくださいました。この賜物であるいのちを守り育てていくために、わたしたちは新しい愛情表現や創造的な信仰生活のあり方を模索するよう求められています。教会共同体も危機的な状況ではありますが、このような時にこそ「神の恵みと一人の人イエス・キリストの恵みの賜物とは、多くの人に豊かに注がれる」（ロマ5・15）ということ信じ、力を落としている仲間がいれば互いに声を掛け合いながら、神への信頼と賛美の内に歩み続けることができますように祈りたいと思います。

6月20日（土）から立川教会も条件付きの公開ミサを再開していきます。

「立川教会ガイドライン」を参考に、感染予防対策と条件付きの公開ミサを始めたいきましょう。公開ミサを続けていくためには、人数制限と身体的距離の確保、マスクの着用や3密を避けること、ミサ後の消毒作業等が求められます。一人ひとりのご理解とご協力が不可欠です。一日も早く、高齢・基礎疾患のある皆様に安心して教会に迎える日が来ますように。

「神は、待ち望むすべてのものに
いのちの糧を豊かに恵まれる。」
(詩編145・15)

カトリック立川教会 主任司祭
東京教区 ヨゼフ 門間 直輝